



「自分に適した学問選んで」薬学研究の小野田さん講演 樹徳高校で高大連携講座

教育 / 2025.09.17 16:00



「薬が創られ届くまで」を分かりやすく語る小野田さん（樹徳高校勢至ホールで）

樹徳高校（野口秀樹校長）の高大連携講座が12日、桐生市錦町一丁目の同校勢至ホールで開かれ、山口東京理科大薬学部助教の小野田淳人さん（35）が「薬が創られ届くまで」と題して同校生向けに講演した。小野田さんは、多くの専門家が協力して医薬品ができる過程を分かりやすく解説した上で、「大切なのは自分に適した学問や環境を選ぶこと」「医薬品は人類の英知。次世代が科学の英知を切り開く日が楽しみ」と語った。

大学などで活躍する専門家の話を聞いて最先端の研究を肌で感じてもらおうと、同校が2006年度から行っている同講座。今回は同校の進学探究コースと理科部、中高一貫校コースの計185人が受講した。

小野田さんは千葉県袖ヶ浦市出身。東京理科大薬学部卒、同大学院薬学研究科博士課程を首席で修了。山口県山陽小野田市の同市立山口東京理科大薬学部助教、名古屋大医学部附属病院客員研究員を務める。

大学時代の2015年には、グーグルが主催する高校生らの研究発表会「サイエンスジャム」でグランプリを受賞した同校理科部をサポートした縁がある。

小野田さんは講演で、薬になりそうな物質を見つけ創り出す「基礎研究」、その物質が病気に効果があるか安全かを実験する「非臨床・臨床試験」、世に出しても問題ないかチェックする「審査・承認」、患者に届けて服薬させる「流通・調剤」など、さまざまな過程があることを説明。「薬が創られ届くまで、大勢の専門家の力を合わせて初めて達成できる」と語った。

さらに「大事なのは自分が何をやりたいのかを考え、自分に適した学問や環境を選ぶこと。大学進学の際に悩むと思うが、自分に合っているか、他人の価値基準で決めていないか、よく見つめ直して進路を考えてほしい」と呼び掛けた。

その上で「医薬品は人類の英知の塊。医薬品を創ることは、今まで誰も成し得なかった新しいことに挑戦すること。次の世代を担う皆さんが、新しい科学の英知を切り開く日を楽しみにしている」と語り掛けた。